

鹿屋寺子屋かわら版

令和7年10月31日発行 第50号

魔法のことば

10月4日（土）に生涯学習課主催の鹿屋市家庭教育講演会が実施されました。講師は石田勝紀氏（教育デザインラボ代表理事）で、演題は「学ぶ力を引き上げ、幸せな人生も歩める子になる『マジックワード』」でした。興味深い話が聴けましたのでここで紹介します。

【自己肯定感を引き上げる10の魔法のことば】

自己肯定感とは、簡単に言うと「短所も含めて今の自分がいいね。」と思えることである。ある調査によると日本人は他国に比べて自己肯定感が低い。なぜ低いのか、石田氏によると「学校に行って勉強をするからである。なぜかというと、勉強ができるだけが唯一の価値であるような風潮があるから。だから、あまり勉強が得意でない子どもは、自己肯定感が低い。」とのことであった。

そこで、次の「自己肯定感を引き上げる10の魔法のことば」を提示されました。

【承認のマジックワード】	1 すごいね	2 さすがだね	3 いいね
【感心のマジックワード】	4 なるほど	5 知らなかった	
【感動のマジックワード】	6 ありがとう	7 うれしい	8 助かった
【安心のマジックワード】	9 だいじょうぶ		
【指摘するマジックワード】	10 らしくないね		

留意点としては、「軽く、明るく、さりげなく」伝え、長々と話さず短いことが大事だそうです。

【頭脳のスペックを引き上げる魔法のことば】

子どもの脳をパソコンのOSに例えて、そのバージョンを上げていくと処理能力が上がっていくように、子どもの脳も成長によってバージョンアップしていくが、個人差がある。子どもの脳のバージョンの差が学力差になる。

子どもの脳をバージョンアップさせるのに必要なものは、「考える力」である。考える力とは、「疑問を持つ力」「まとめる力」である。子どもにその力をつけるためには、指導者の立場の人（保護者や先生等）の声掛けが重要である。

「疑問を持つ力」
1 なぜ？・・・原因分析力
2 どう思う？・・・自己表現力
3 どうしたらいい？・・・問題解決力

「まとめる力」
1 要するに？・・・抽象化思考力
2 例えば？・・・具体化思考力

これらの質問に対して、答えられなくても大丈夫である。一瞬でも考える習慣を身に付けることが大事である。

さて、私たちの寺子屋でも実践できる場面がありそうです。宿題の支援をする中で、何気ない会話の中で、「なぜそう思ったの？」「すごい。」「要するにどういうこと？」などの言葉があふれるといいですね。

鶴峰寺子屋塾 ~9月の様子~

【児童の感想】

- 本をいっぱい読みました。けん玉が楽しかったです。
- 勉強がすぐに終わって、折り紙とけん玉をして楽しかったです。

【指導員の感想】

- 子どもたちと本を読んだりして楽しかったです。
- 宿題をきれいな文字で書いていました。幼少期からの練習が大切だと思います。
- 宿題を早く済ませて、3人で楽しく遊んでいました。



古江寺子屋塾 ~9月の様子~



【児童の感想】

- 4年生一人と2年生一人が欠席して、一人で静かに宿題をしました。
- 運動会の予行練習がきついでした。その後の授業が算数だったので、とてもきついでした。寺子屋では、宿題の漢字をがんばりました。

【指導員の感想】

- 運動会の練習の後だったようで、気持ちが高揚していて、にぎやかでした。

輝ララ塾 ~モルック体験~

【児童の感想】

- 宿題が終わってから、モルックをしました。最初は勝てなくて、くやしかったけど、みんなですると楽しかったです。

【指導員の感想】

- 2年生男児が新規で入塾しました。宿題にきちんと取り組み、「輝ララノート」の記入もできました。市民スポーツ課の出前講座でモルック体験をしました。勝負を決するミラクルプレイに歓声が沸いて、大いに盛り上りました。



としちゃん塾 ~ひまわりの植え付け~



4月23日に、苗の植え付けを行い、7月4日に満開を迎えた。

